

政策番号 政策名

121 すべてのひとが相互に支え合い安心してくらす

政策の方向

だれもが住み慣れた地域社会のなかで、そのひとらしい幸せな日常生活が健やかに送れるよう、保健・医療・福祉などくらしの基盤となるサービスや支援ネットワークが充実しているまちの実現をめざす。

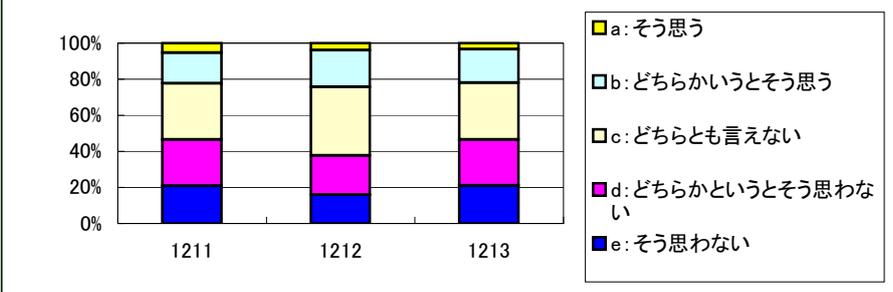
政策の評価

1 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価

施策番号	客観指標名	17		18		19	
		数値	評価	数値	評価	数値	評価
1211	ボランティア登録者数（人）	42,401	b	47,778	a	49,415	a
1211	ボランティア相談件数（件）	3,082	b	3,943	a	2,277	-
1212	健康すこやか学級の年間実施回数（回）	2,171	b	2,418	b	2,955	a
1212	介護保険における居宅介護支援（介護予防支援）利用者数（人）	31,600	c	33,031	c	32,454	c
1213	日帰り介護（デイサービス）（箇所）	20	c	23	a	24	b
1213	居宅介護の延べ利用時間数	820,301	a	1,000,235	a	1,034,026.5	a
客観指標総合評価			b		a		a

2 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価

施策番号	設問	評価		
		17	18	19
1211	万が一のことがあっても地域で支えあう仕組みがあるので、安心である。	d	d	d
1212	高齢者とその家族を支えるサービスが充実している。	c	c	c
1213	障害のあるひとやその家族を支えるサービスが充実している。	c	c	d
市民生活実感総合評価		c	c	d



3 総合評価（市民生活実感総合評価＋客観指標総合評価）

C	客観指標については、全6項目のうちボランティア登録者数などの3項目でa評価になるなど、良い状況となった。 市民生活実感については、地域社会における相互支援と障害福祉サービスの2項目ではd評価で、高齢者福祉サービスに関してはc評価であり、全体としてはやや悪い状況である。 客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的は、昨年度を下回りそこそこ達成されていると評価する。	17年度	C
		18年度	B

4 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

17年度		18年度		19年度	
順位	%	順位	%	順位	%
2	40.1%	2	42.2%	1	50.0%

5 原因分析・今後の方向性

総合評価は昨年度のB評価からC評価となった。

本政策の目的である「すべてのひとが相互に支え合い安心してくらす」まちの実現に向けて、「京（みやこ）・地域福祉推進プラン」、「京都市民長寿すこやかプラン」及び「京都市障害者施策推進プラン」に基づいた各種事業を展開しており、着実に成果を挙げてきている。

しかしながら、市民生活実感は、この政策を実現するための3つの施策のうち、障害福祉サービスについてc評価からd評価に下がったため、市民生活実感総合評価が昨年度より1ランク下がっている。これは、平成18年4月の介護保険制度の改正による「予防重視型システム」への転換や障害者自立支援法の施行など、国の制度改正による市民の関心の高まりが大きな原因と考えられる。また、27の政策のうち重要度が第1位であるように市民の期待や要求水準の高まりも1つの理由と思われる。

本政策目的の達成には、社会全体の意識のあり方を含めた中長期的な視野での着実な施策展開が必要であると考えられる。京都市としては、今回の制度改正に対応して、全国のモデルとなった「京都方式」、「新京都方式」（障害者自立支援法施行に伴う初期の負担軽減等）といった市民の実情を十分汲み取った施策を実施したところであるが、市民生活におけるセーフティネット（安全網）をしっかりと守るためにも、市独自の施策展開とともに、国に対して制度・財政両面からの充実を求める必要がある。

（参考）この政策を実現するための施策とその総合評価

施策番号	施策名		評価結果		
	施策概要		17	18	19
1211	住み慣れた地域のなかで支え合い安心してくらすしくみづくり		C	C	C
	地域社会での相互支援の仕組みを再構築するとともに、福祉ボランティアの活動を支援し、地域社会全体で支援の必要なひとの生活を支える社会を構築する。				
1212	高齢者とその家族の生活を支えるサービスの充実		B	B	B
	高齢者とその家族が安心して生活できるよう、多様なサービスを提供する。				
1213	障害のあるひととその家族を支えるサービスの充実		B	B	C
	障害のあるひととその家族が安心して生活できるよう、多様なサービスを提供する。				